

## 【事業実績】

新潟大学がやります。みなとまち新潟の芸と風土 発掘・体験プロジェクト——近世から現代まで

### 1. 関連展示及びアーカイブ

#### (1) 地域に残る作品・資料の収集とアーカイブ

- ①**作品・資料の収集**：新潟市内に残る美術・工芸品を所蔵する市民から見せていただき、保存・管理の実態についても確認しお話を伺った。連携館と協議しながら展示する作品を選定した。
- ②**デジタルアーカイブ化**：市民から許可をいただいた作品（展示しない作品を含む）を撮影し、今後の調査・研究に寄与するデジタルアーカイブとして、連携館と画像データを共有した。なお、一部の画像は特設ウェブサイト（後述 3.(1)参照）により公開した。

#### (2) 作品展示及び関連行事の実施

- ①**作品展示**：令和5年10月25日（水）～11月26日（日） 来場者：18,309人

プロジェクト中核館である新潟大学旭町学術資料展示館、プロジェクト連携館及び近隣の文化施設、料亭、飲食店、寺院など9会場で、新潟市内に残る美術・工芸品などの作品を展示した。あわせて新潟大学旭町学術資料展示館では、新潟大学の東洋美術史の研究成果も展示した。各会場を巡ることで地域の歴史・文化・芸術を体感していただいた。



新潟大学旭町学術資料展示館会場



旧齋藤家別邸会場



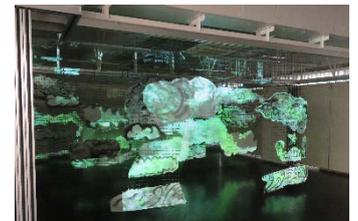
正福寺会場

**参加者の感想**「美術館ではなく歴史的建造物の中で鑑賞できたことは意味深い」「まだ知らない郷土の美術品があることを知った」「港町新潟の豊かな時代に思いを寄せるよい機会になった」

- ②**体験講座**：令和5年9月23日（土・祝） 参加者16名

本プロジェクトの中心事業となる作品展示の開催前に、体験講座を実施した。江戸時代の新潟の絵師・五十嵐浚明の《龍虎図屏風》を題材に、一般市民と新潟大学学生とが日本画の技術を応用した作品づくりを行った。

**参加者の感想**「みんなで一つの作品を仕上げるのが楽しかった」  
「平面で描いたものを立体的に配しさらに映像との組み合わせで新たな体験ができた」「墨にふれるのができ楽しかった」「学生と協同作業ができてよかった」



体験講座の様子と完成作品

- ③**コンサート**：令和5年11月23日（木・祝） 参加者37名

五十嵐浚明の活躍した同時代の音楽家を扱った演奏会を実施した。参加者は、専門家による解説や演奏により、日本と西洋、美術と音楽について考え思いを馳せる時間を楽しんでいただいた。



コンサートの様子

**参加者の感想**「世界の音楽と日本の美術が繋がっていることを知った」「インスピレーションが深まった」「タイムスリップしたような気持ちでその時々に住きた人たちと一緒に時間を過ごしているようだった」「新潟市出身の画家を西洋音楽の歴史に合わせて知ることができた」「音楽、絵画、歴史を総覧することができて興味深かった」

#### ④まち歩き：令和5年11月19日（日）、11月25日（土）参加者13名

＊11/18は荒天のため中止

新潟シティガイドと連携し、展示会場を巡りながら地域の歴史や文化を体感できるまち歩きを実施していただいた。



まち歩きの様子

**参加者の感想**「普段入る機会がない施設が展示会場になり楽しかった」「美術館で見るような作品を街中で間近に見ることができた」「湊町新潟にはまだまだ知られていないお宝がたくさんあると実感した」「詳細な説明で普段と違う目線で楽しめた」「実際に歩いてみて新潟の良さを再発見できた」

#### ⑤アンケートの実施・分析

展示及び関連イベントでのアンケートを実施した。また展示鑑賞者のうち数名にエピソード評価によるインタビューを行った。「プロジェクトから新たな気づきを得た」「地域の文化財の保存・継承の大切さを再認識した」等の様々な感想が寄せられたことによりプロジェクトの達成を確認した。

## 2. 関連シンポジウムの実施

### (1) シンポジウム：令和5年11月11日（土）参加者30名

日本全国で文化財が失われている現状をふまえ、地域に残る文化財の継承・保存・活用を考えるシンポジウムを開催し、事例発表とディスカッションにより参加者と問題意識を共有することができた。

**参加者の感想**「町の記憶や文化が消えていくことは恐ろしいこと」「(新潟の)古町がこんなに歴史あるものだと知らなかった」「新潟の文化財の多さが想像以上だった」「まちの記憶について本気で考えることははじめてだった」「継承活動でデータベースを作って残す形があることを知り興味を持った」



シンポジウムの様子

## 3. プロジェクトの情報発信

### (1) 特設ウェブサイトの作成

プロジェクトの概要、展示・イベント情報、成果等を発信するための特設ウェブサイトを作成し、公開した。

URL：<https://www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/innovatemuseum2023/>

### (2) 記録集の作成

プロジェクトの成果をまとめた記録集を作成した。PDFデータは特設ウェブサイトに掲載した。



特設ウェブサイト